

## ぎふ花と緑の振興コンソーシアム (岐阜県)

協議会構成団体：岐阜県園芸特産振興会、岐阜花き流通センター農業協同組合、岐阜県グリーンサービス協同組合、岐阜生花市場協同組合、全国農業協同組合連合会岐阜県本部、花キューピット岐阜支部、岐阜県（農政部）、他、企業会員33、学会会員11、行政・団体会員15

## 戦略品目 フランネルフラワー



フランネルフラワーを使ったアレンジメント

### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- ハウス遮光と温度管理等を組合わせた栽培技術を導入することにより、開花期調節と品質の安定化を図る。

- 標高100m程度の平地と標高600m程度の高冷地で実証を行ったところ、いずれの圃場でも品質が向上した。

	出荷本数	着花率 (%)	莖数 (cm)	輪数率 (3輪・多輪)	花径 (cm)
平地	対象区	20%	58cm	26%	5.8cm
	実証区	85%	67cm	77%	8.3cm
高冷地	対象区	30%	62cm	71%	8.6cm
	実証区	95%	72cm	98%	9.8cm

【表】10月中旬調査結果



遮光装置

#### 3 需要の拡大 (1)

- 県内の小中学校・特別支援学校40校を対象に、花き文化団体や生産者が講師となり種まきやフラワーアレンジなどの実習を行う。
- 花育体験教室を各地域で開催し、体験に合わせフランネルフラワーをはじめとする県産花きを紹介する。

- 種まき体験は、9月6日から11月5日までに、25校の837人が体験した。
- 寄せ植え等の装飾体験は、10月21日から3月16日までに27校の988人が体験した。
- 参加者アンケートを提出した942名のうち、体験を通じて花が好きになったと答えた生徒が75%、家でも花を飾りたいと思った生徒が71%となり、花への関心が高くなった。



寄せ植え装飾体験

#### 3 需要の拡大 (2)

- 異業種である住宅メーカーと連携し、岐阜市内住宅展示場において「花のある暮らし」を提案する展示及びイベントを実施する。
- モデルハウス等での展示に加え、花きの即売会や花飾り体験教室、ステージイベントなど、若い親子世代を中心とした花飾りの提案イベントを実施する。

- モデル住宅5棟の各部屋のイメージに合わせた花飾りを提案。
- テーブルコーディネート協会とコラボレーションし、フランネルフラワー等を使用した、日常の暮らしを華やかにするコーディネートを提案した。
- 来場者アンケートを提出した45名のうち、モデルハウスの花飾りを見られて、家庭でも花を飾りたいと思ったと回答した来場者が100%となり、家庭での花飾りへの関心が高くなった。



花きを使ったテーブルコーディネート

### < 今後の取組予定 >

- LED照射について新たにセルリアでも実証を行い、同様の効果が見込めるか検証する。
- コンソーシアムを中心に異業種が連携した花きのPRを行う。

## 愛知県花きイノベーション地域協議会総会 (愛知県)

協議会構成団体：愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県港花き卸売事業協同組合、一般社団法人愛知県花き市場組合、愛知豊明花き流通協同組合、三河生花協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会愛知県支部、日本ハンギングバスケット協会愛知県支部、中日いけばな協会、特定非営利法人花文化を無形文化遺産に推める会、あいち花マルシェ2021実行委員会、参加希望花き関係団体、豊橋市、豊川市、田原市、愛知県

### 戦略品目

切り花：キク、バラ、カーネーション、グロリオサ、デルフィニウム  
鉢物：アジサイ、シクラメン、ポインセチア、コチョウラン、シンビジウム、秋用花壇苗



### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- スプレーギクは冬季の低温・寡日照によってボリューム不足となることが問題となっている。
- 県内で栽培されている主要な秋系スプレーギク3品種（セイヒラリー、レミダス、アイセイカーラ）を用いて炭酸ガス施用効果を検証した。

- 灯油燃焼式の炭酸ガス発生装置を用い、統合環境制御装置による制御を行った（制御設定：日の出～日没1時間前まで600ppm、換気窓や日射条件によっては400ppm）。
- 炭酸ガス施用によって、到花日数は無施用と同等または短縮することができた。また、上位階級発生率（2L以上）は無施用より向上し、特にレミダスでは22.7%増加した。



左2本：対照区  
右2本：炭酸ガス施用区

#### 2 流通の効率化・高度化

- 白色バラの主力品種「アヴァランチェ+」は高温期に花色がクリーム色～オレンジ色を呈し、市場や実需者からクレームがあり、問題となっている。
- 予備試験の結果、収穫後さらに花色変化が進むことが分かったため、収穫時及びポストハーベストの観点から改善策を検討した。

- 低温冷蔵庫での水揚げ前に、20℃以上4時間以上の環境下で水揚げすること（予措）で、色変わりの程度を70%以上抑制できた。
- 朝収穫と夕方収穫では、夕方収穫の方が色変わりの程度が低くなった。



4℃24時間の水揚げ後、オレンジ色に変化した様子



20℃4時間予措の効果

#### 3 需要の拡大

- 豊橋市内小学校及び特別支援学校高等部各1校において、県内産コチョウランを用いた花育体験として「らん育」プロジェクトを実施した。
- 本プロジェクトで、児童・生徒は灌水や花茎の誘導等について学び、苗から開花までの約3ヶ月間花を育てることを体験した。

- 2校合わせて62名の児童・生徒を対象に花育体験を行い、児童・生徒とその保護者に対してアンケート調査を実施した。
- アンケートの結果、児童・生徒の98%が花育体験を「楽しかった」と回答しており、花への関心が高まったことを確認できた。また、保護者の回答では、花育体験前後で比較して、月あたりの花の購入頻度は0.78回/月→0.98回/月（+25%）、購入金額は651円/月→857円/月（+32%）と増加した。



生徒へコチョウランを説明する生産者ら

### < 今後の取組予定 >

- 輪ギクの需給ギャップの解消のため、輪ギクとスプレーギクの混植栽培技術を実証する。
- 白色バラの主力品種「アヴァランチェ+」の花色変化について、栽培時の温度条件が及ぼす影響を調査する。
- 「らん育」プロジェクトについて、座学に加え、生産ほ場の見学も実施することで、花き生産を一体的に学ぶ機会を提供する。

## 花の国づくり三重県協議会 (三重県)

協議会構成団体： 三重県花植木振興会、三重県花商組合連合会、(公社)日本フラワーデザイナー協会三重県支部、三重県インドアグリーン協会(一社)日本ハンギングバスケット協会三重県支部、三重県園芸福祉ネットワーク、(一社)JFTD58花キューピット三重支部、株式会社伊勢生花地方卸売市場、三重県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、三重県ボランティア連絡協議会、(公社)三重県観光連盟、三重テレビ放送株式会社、株式会社伊勢新聞社、三重県市長会、三重県町村会、三重県

## 戦略品目

花壇苗もの：パンジー  
切り花：バラ、ガーベラ  
花木類：オタフクナンテン

### < 取組内容 >

#### 1 生産供給体制の強化

- ・パンジー：矮化剤の効果的な使用方法の検証
- ・バラ：屋根に散水システムを設置し、散水による夏期の昇温抑制効果の検証
- ・ガーベラ：遮熱材による夏期の高温対策技術の確立
- ・オタフクナンテン：耐性菌に効果のある炭疽病の新防除体系の検証

- ・矮化剤の種類、散布濃度および散布回数を変えて7試験区で試験した結果、徒長抑制効果の差は見られたものの2処理区において、対照区より約4～7%程度の徒長抑制効果が得られた。
- ・屋根に散水することにより、夏期の施設内温度が平均1.5℃、最大3.9℃抑制することができた。試験区では対照区より樹勢回復と同化能力が高くなる結果となり、夏期の高温対策として有効であると判断できた。
- ・遮熱材の高温抑制効果は、被覆資材によるが夏期の施設内温度を1～2℃下げることができ、遮光による生育停滞等の影響は見られなかったことから、一定の高温抑制効果があると推測された。
- ・昨年度培地試験で耐性菌に効果が確認された農薬をローテーションに加えた防除体系において、炭疽病の少発生条件では4週間ごとの散布でも十分防除効果が得られた。

### < 取組の成果 >

#### 2 流通の効率化・高度化

- ・バラにおいて、生産段階で抗菌剤を使用した「前処理」と小売段階で鮮度保持剤を使用した「後処理」の品質向上技術の実証を行い、日持ち性について評価する。

- ・常温条件下では、「前処理+後処理」を実施したバラが最も日持ち性が高い傾向となり、常温条件下で店頭販売する場合には有効性が高い。また、冷蔵条件下では、処理の違いによる顕著な差は見られなかったが、常温条件下より日持ち性が高かった。
- ・今回4品種で試験を行ったところ、日持ち性に品種間差が認められた。

#### 3 需要の拡大

- ・小中学生を対象に、戦略品目の県産花きを用いた花育教室を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。
- ・企業等を対象に、戦略品目の県産花きを用いた花育教室を行い、新規需要の創出を目指す。
- ・花き以外の観光分野、住宅分野、アパレル分野と連携し、異業種コラボによる飾花と県産花きの販売を実施

- ・合計773名の児童が花育体験を行ったところ、参加した児童へのアンケート結果によれば、花育体験後に38%が以前よりも花やみどりに興味を持つようになった。
- ・県産花き花木を使ってホテルやスーパーなど県下5か所で飾花展示、オンラインでの園芸体験教室を行い、展示への来客及び体験教室への参加者にアンケート調査を行った。その結果によれば、回答者の50%である県産花きを知らなかった人にPRができた。
- ・普段花への関心が低い消費者にも県産花きをPRすることができた。



飾花展示

### < 今後の取組予定 >

- ・シクラメンの高温対策
- ・県内で消費拡大イベントを開催し、花への関心が低い消費者の来場を促すことで、新たな需要の創出を図る。
- ・さらなる消費者獲得に向け、小中学校等を対象に花育活動に取り組み、県産花きのPRと消費拡大につなげる。